

レポート

2018/09/12

STUDY GROUP DOUBLE TOKYO Memorial Lecture

2018年9月9日日曜日

STUDY GROUP DOUBLE TOKYO の立ち上げ記念講演が
東京のベルサール御成門駅前にて開催された。



補綴主導のインプラント治療をコンセプトとする新しいスタディーグループの立ち上げに、事前予約は300名を超えた。参加者の多くは歯科医師、歯科技工であり、歯科衛生士も参加していた。比較的若手の参加者が多く見られ、会場は、まさにこれから羽ばたこうとするスタディーグループの門出に相応しい熱気に満ちていた。



立ち上げ記念講演では、DOUBLE TOKYOがどのようなコンセプトに基づいて、どのような活動を行っていくのかについて語られ、そしてそのコンセプトに関わる領域について各ゲストスピーカーが講演する。そして、DOUBLE TOKYOの最高顧問である山崎長郎先生と、今世界中で注目を集めているB.O.P.Tの Dr. Ignazio Loiの講演、セッションへと続く。

DOUBLE TOKYO ～我々が伝えたいインプラント治療～

オープニングから、DOUBLE TOKYOを主宰する歯科医師の橋村吾郎先生と歯科技工士の志田和浩氏が、DOUBLE TOKYOのコンセプト、そして目指すべき歯科医療について語った。橋村先生と志田氏は、補綴主導のインプラント治療を目指してチームを組み、10年が経つという。

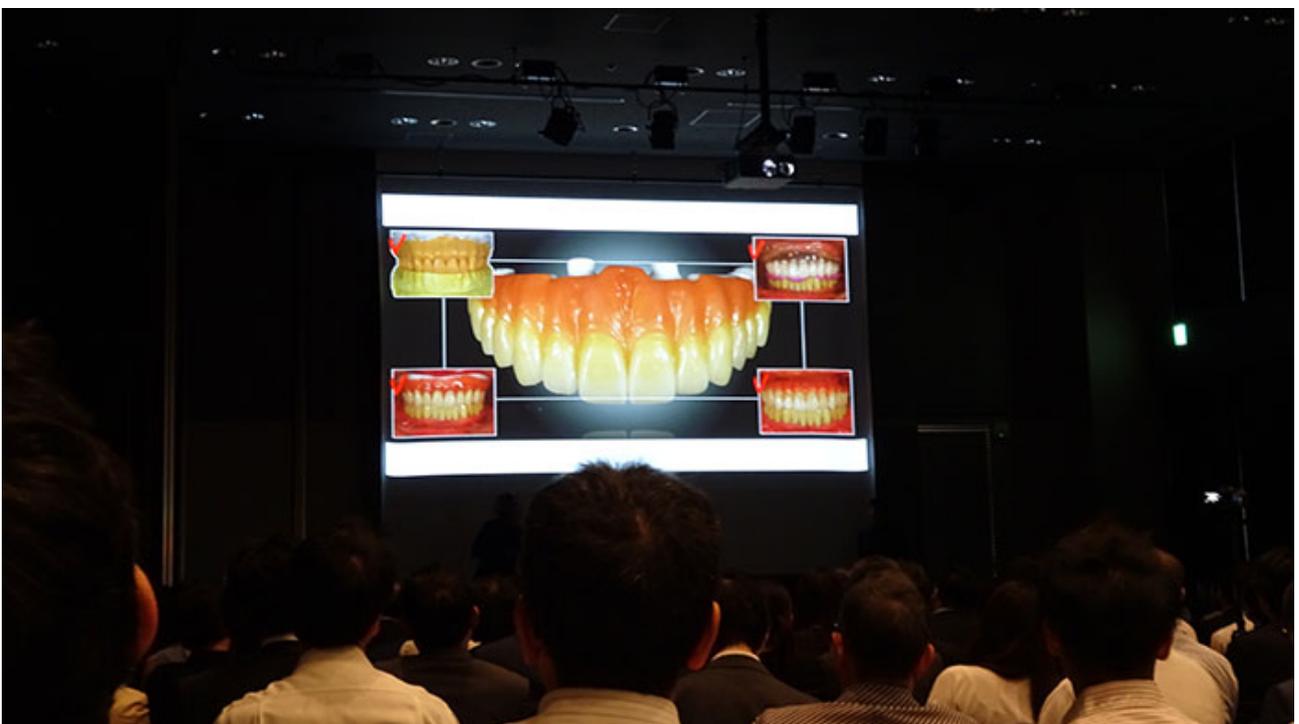


DOUBLE TOKYOの講演の特徴は、橋村先生と志田氏が同時にステージに立ち、10年をかけて培い、これから伝えて行こうとする歯科医療について、歯科医師・技工士それぞれの観点から話すというスタイルにある。



外科主導のインプラント治療では、中長期的に根本的な設計の問題が表面化し、トラブルが生じる。インプラント治療を成功させるには補綴主導であるべきであり、そのためには持続性、予見性の高さ、補綴物の壊れにくさ、患者が望む治療であること、リペア&リカバリーなどの要件を一つ一つ満たす必要がある。

そのために 全てのインプラント治療において、診査・診断・ワックスアップが最重要であるという。

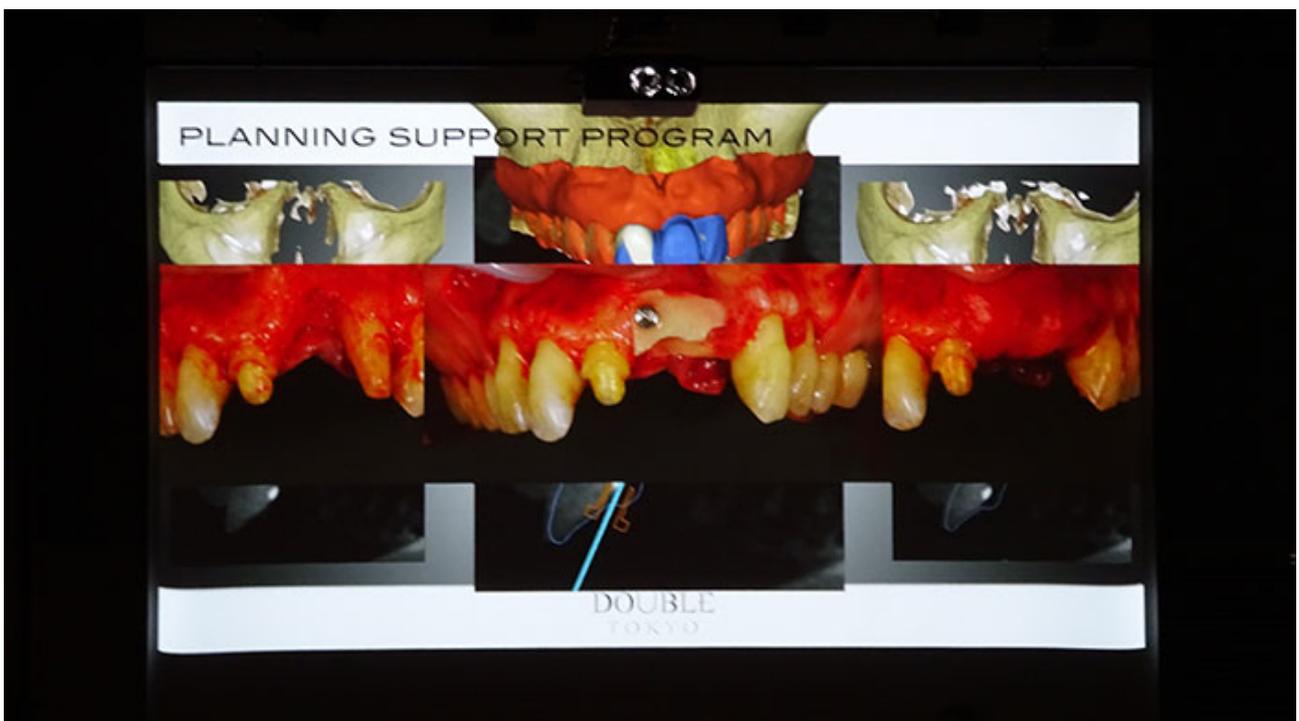


DOUBLE TOKYOが伝えていくのは、感覚的な治療計画・フリーハンドの匠の技による外科処置ではない。橋村先生と志田氏がチームとして組み上げてきた、外科サイドと補綴サイドの両面を考慮し、術前に決定する治療計画。その精密な実行を可能にするためのデジタル解析による3Dプランニング、インプラントポジション、マテリアルや補綴システムの選択などであるという。



そして、最初に立てた計画通りに治療を成功に導くためには、デジタルソリューションを用いることが必要不可欠だという。

“ エビデンスに基づき、患者を確実に幸せにする事の出来る、次世代のインプラント治療を追求します。 ”



DOUBLE TOKYOのコンセプトに加えて、今後の具体的な活動予定が発表された。

Schedule



#1 プランニングサポートプログラム： 4回/年

#2 LIVE SURGELY

： 橋村先生のクリニックからのインプラントオペを、WHITE CROSS Liveと連携し配信

#3 レギュラーミーティング & セミナー： 3回/年

#4 年総会： 1回/年

が行われる。また、11月18日には、#3 レギュラーミーティング & セミナーの第1弾が開催される。



そして、最初に立てた計画通りに治療を成功に導くためには、デジタルソリューションを用いることが必要不可欠だという。

Procedure for Esthetic Area Implant プラントのClassification～ ～審美エリアイン

医療法人翼翔会 理事 安岡大志先生



安岡先生は、審美エリアへのインプラントについて考える上で必要な要件を様々な論文をベースに考え、症例を

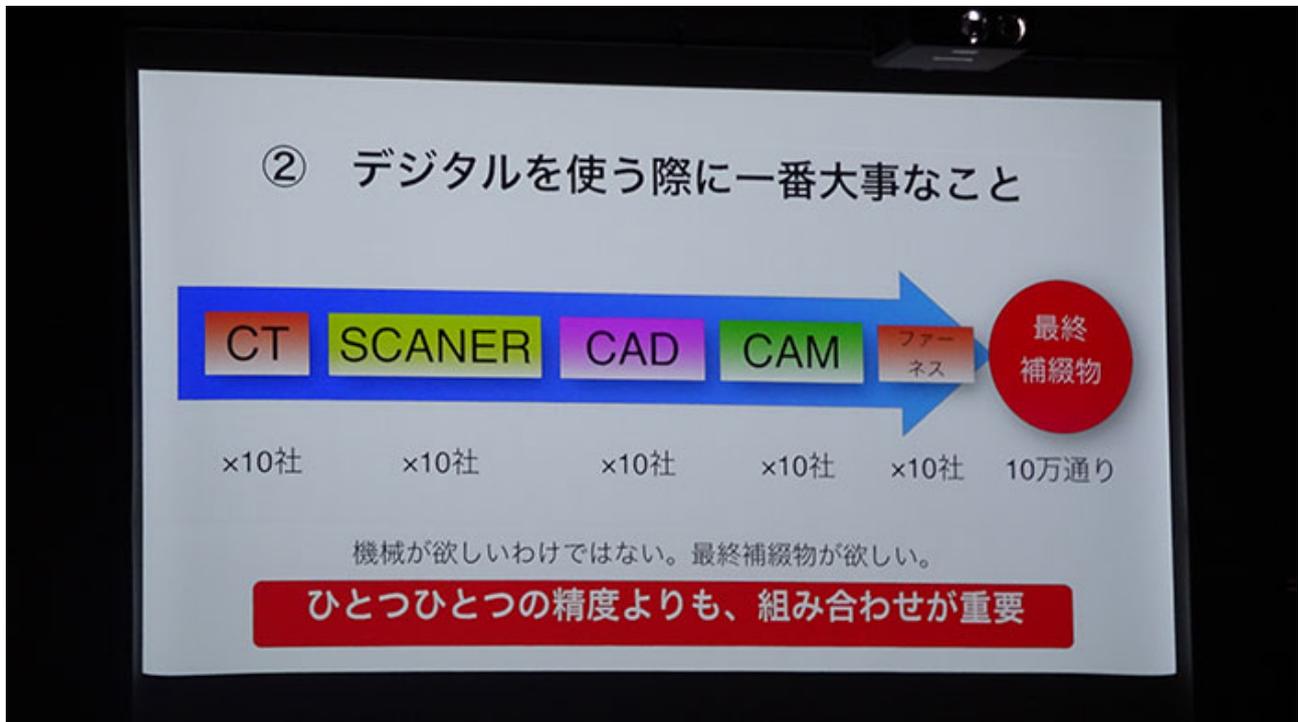
- ・ 軟組織も唇側骨も正常な状況、
- ・ 軟組織は正常だが唇側骨の吸収が重度
- ・ 軟組織に問題があり、唇側骨の吸収も重度

の3つに分類して紐解いていった。

その中において、DOUBLE TOKYOのコンセプトでもある”匠の技ではなくコンピューターシュミレーションソフトにより、誰もが可能なように標準化された歯科治療の必要性”も語られた。

DIGITAL SOLUTION ~その基礎からインプラントの応用まで~

医療法人社団翔舞会 理事長 荒井昌海先生



“ 患者さんの人生において、咬むことと食べることが一致しない時がきます。美しい歯があることと、栄養を取るといこととは別のステージがきます。 ”

荒井先生の講演は、歯科医療の大局観とも言えるメッセージから始まり、次いで歯科治療におけるデジタルとの向き合い方が語られた。

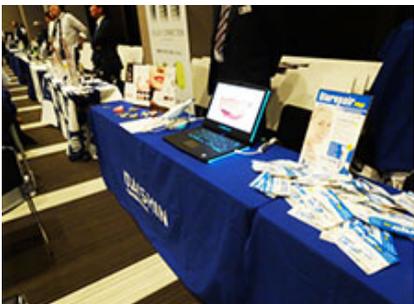
DOUBLE TOKYOのコンセプトに合わせ、補綴、インプラントへのデジタルの適用のみならず、近年の進歩著しいエンド、顎関節、そして無呼吸症候群などへの適用についても言及された。

終始、「デジタルで何がしたいのか？」というデジタル導入の目的に焦点を当てられた明快な講演であった。



講演を楽しむDOUBLE TOKYO最高顧問の山崎長郎先生

ランチタイムを挟んで、午後の部が開催される。

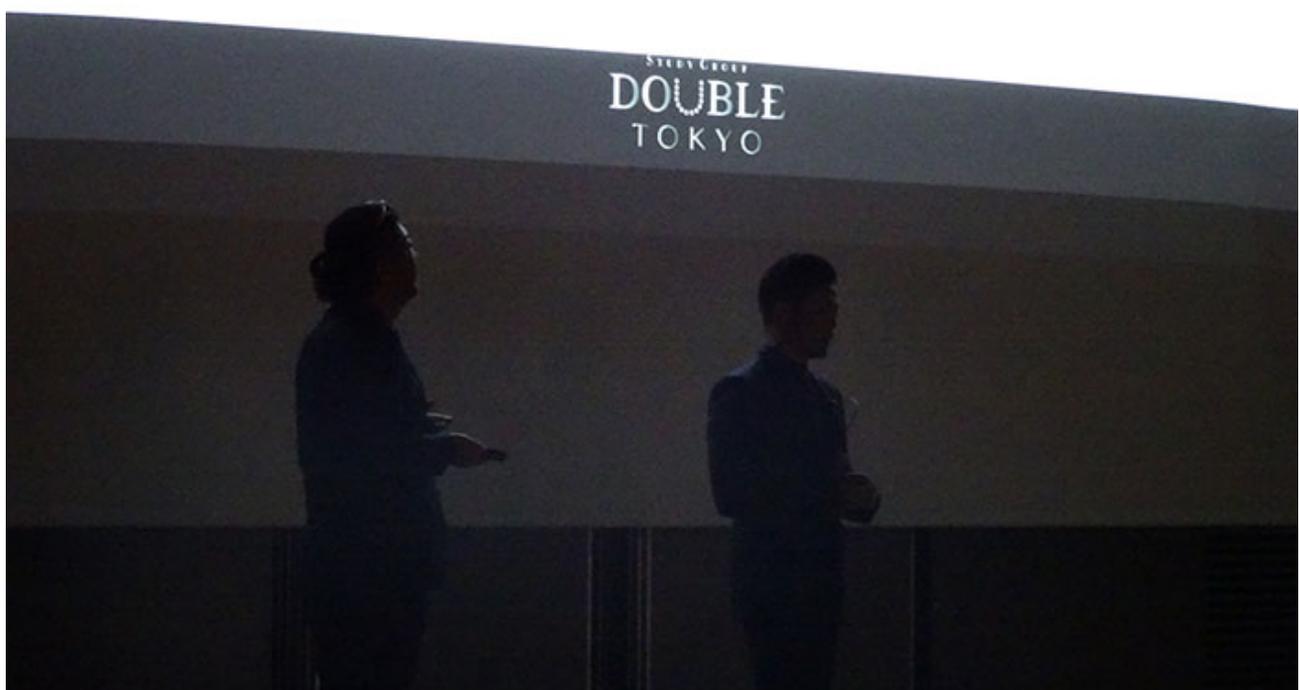


数多くの企業がブースを連ねる

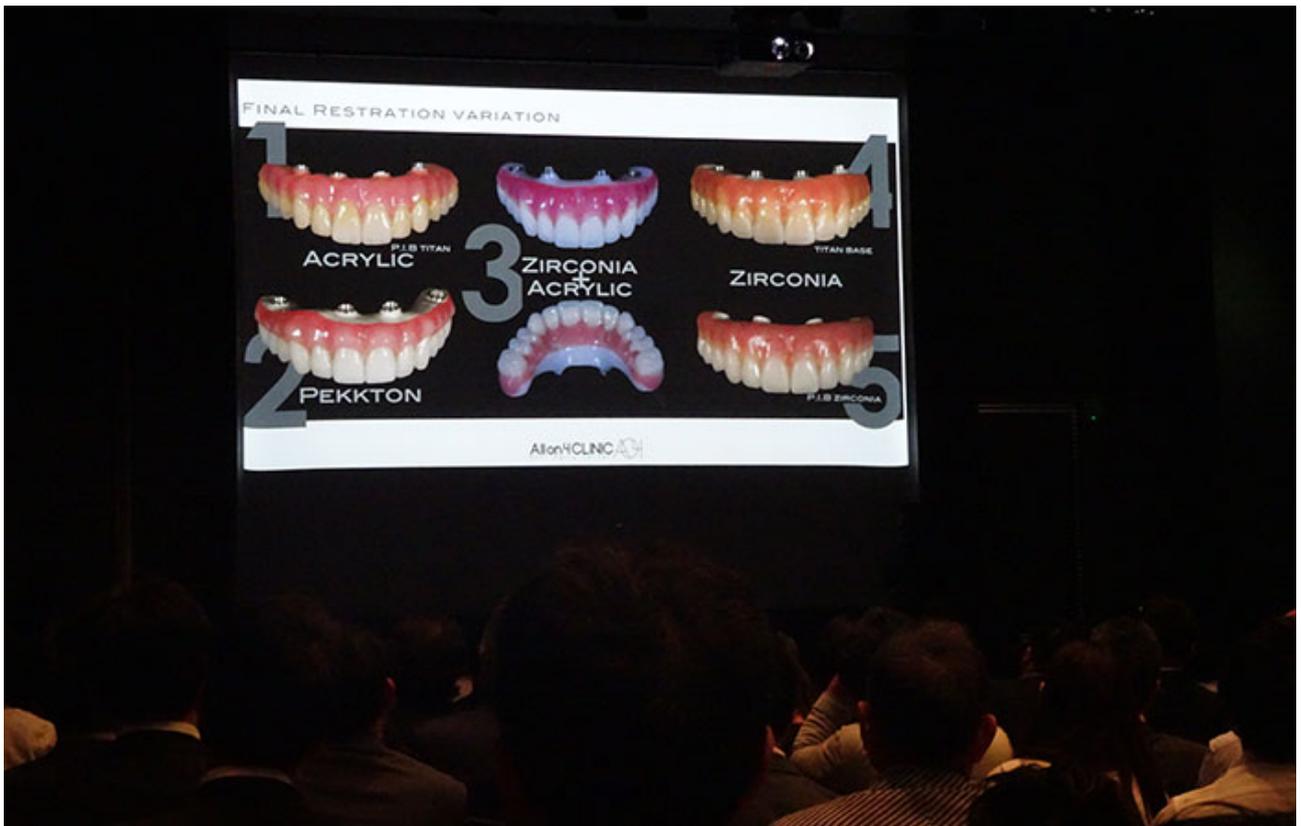
DOUBLE TOKYO PLAN and RESULTS



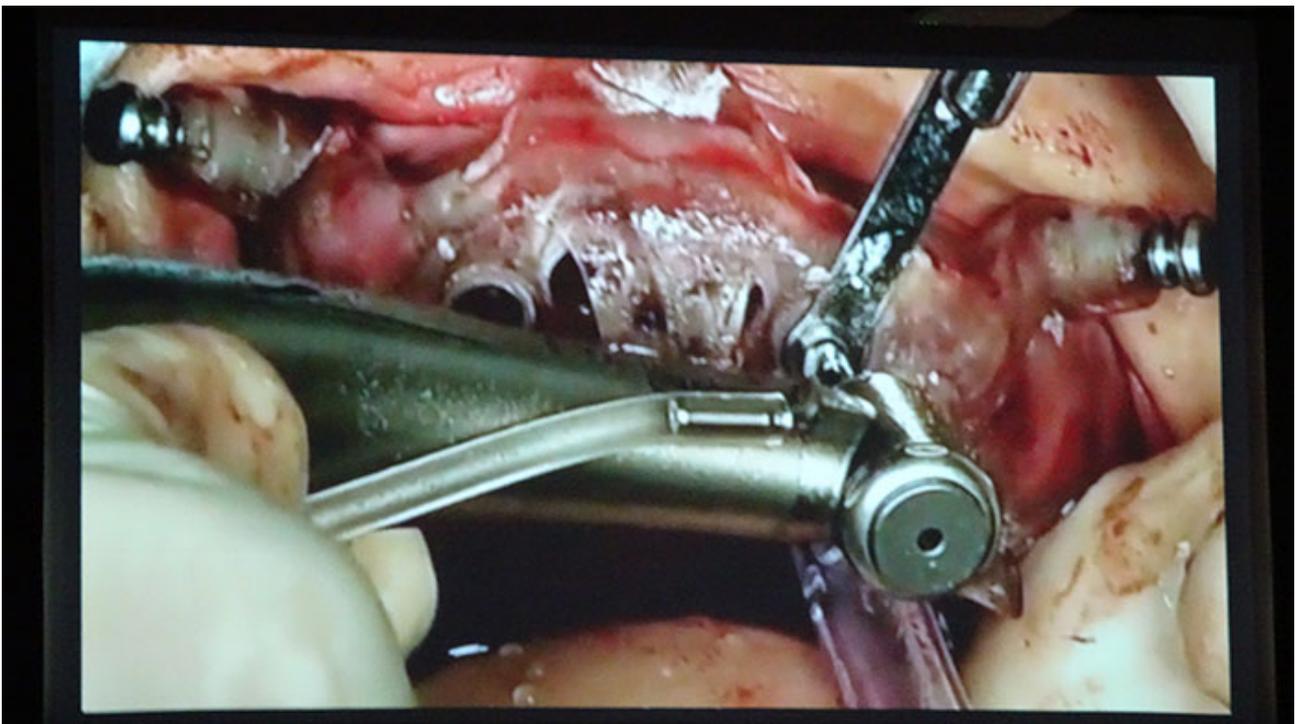
午後一番は、再度、DOUBLE TOKYOの橋村先生と志田氏が登壇した。歯科医師と歯科技工士のチームとして取り組む歯科医療の実際が語られていくことで、午前中に示されたDOUBLE TOKYOのコンセプトに肉付けがされていき、スタディーグループとして研鑽していくインプラント治療の全容が見えてくる。



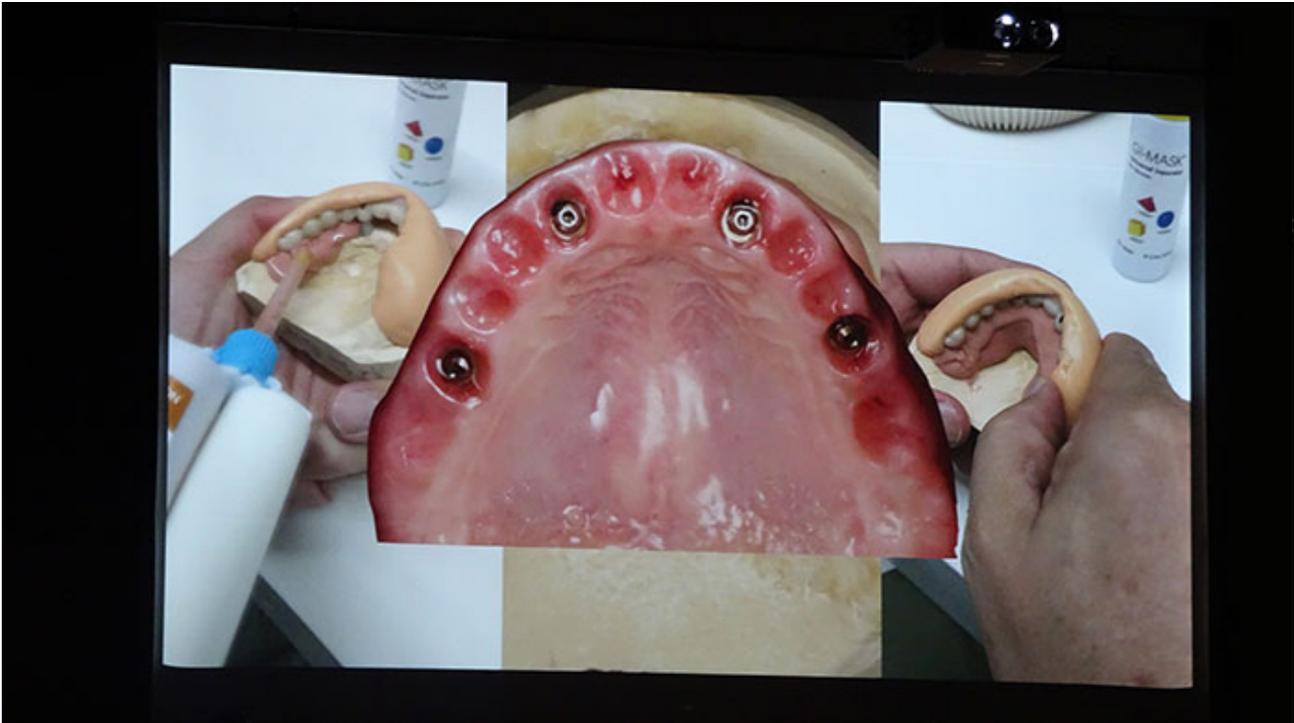
患者に向かい合うステップの一つ一つについて、橋村先生と志田氏が掛け合いをしながら講演を進めていく。



橋村先生が、二人で立てた徹底的なプランニングとその精密な実行を治療の観点から語れば、



志田氏が技工の観点から語る。

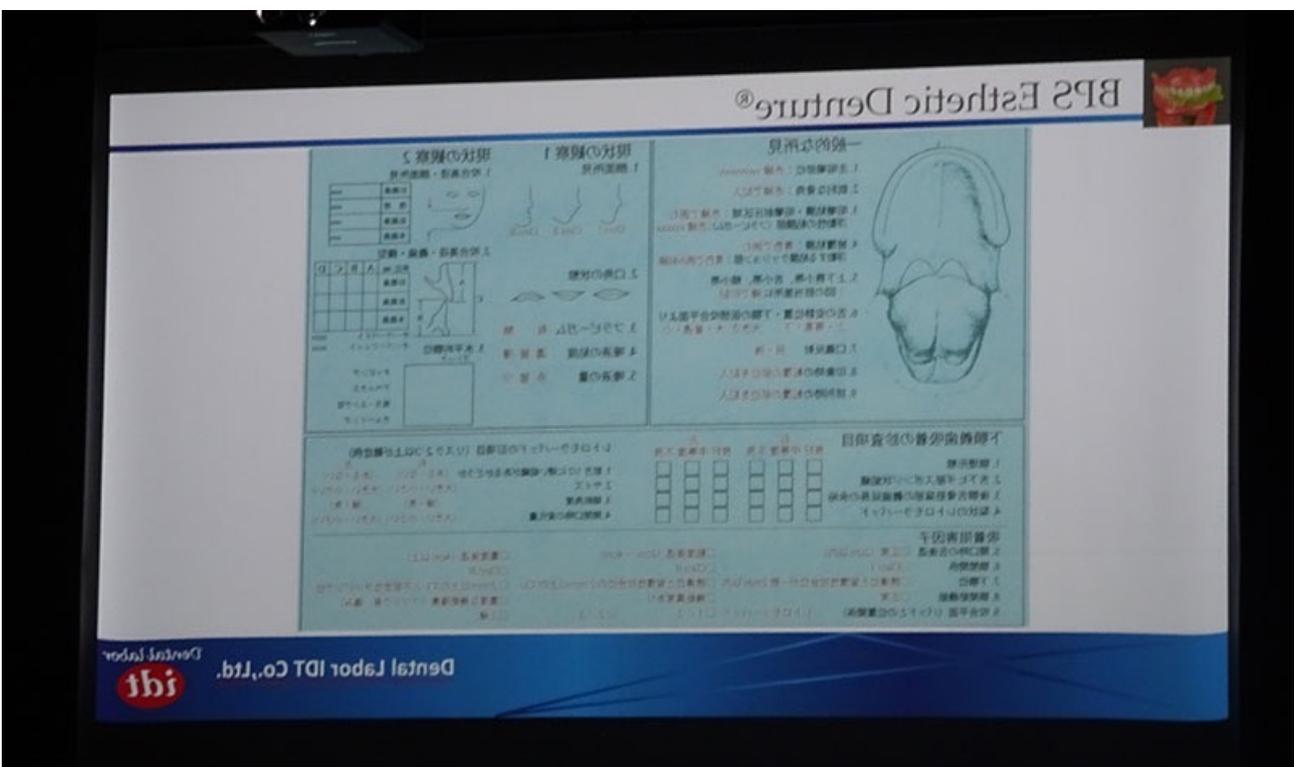


そして、治療を終えた患者のインタビュー動画も紹介され、インプラント治療の先にある患者の幸せの創造を知る。

STUDY GROUP DOUBLE TOKYO。今後の活動が歯科医療界に生む価値に、期待が高まる講演であった。

高精度な義歯では診査で確認し、診断で伝える項目がある

株式会社 Dental Labor IDT 代表取締役・歯科技工士 岩城謙二氏



DOUBLE TOKYOでの学びの一つに、All-on-4の追求がある。そして、All-on-4を成功させるには総義歯への理解が必要不可欠であると橋村先生は語る。

Biofunctional Prosthetic System、通称のBPSエステティックデンチャーの第一人者であり、台湾、カナダなど海外での歯科医療教育にも携わる岩城氏は、精密な総義歯を作成していく上で必要な患者の口腔の情報について丁寧に紐解いていく。



日々、歯科医院において立会いをしている岩城氏が示していく高精密な総義歯製作におけるポイントや動画を通じて、総義歯作成の奥の深さや考えるべきポイントの多様さを知る。

患者価値の高い歯科医療の提供において、歯科医師と歯科技工士が近い距離で敬意を払いあって仕事をするのが如何に大切かを知る。

40年の臨床から見るTooth preparationの到達点

SJCDインターナショナル会長／東京SJCD最高顧問／DOUBLE TOKYO最高顧問

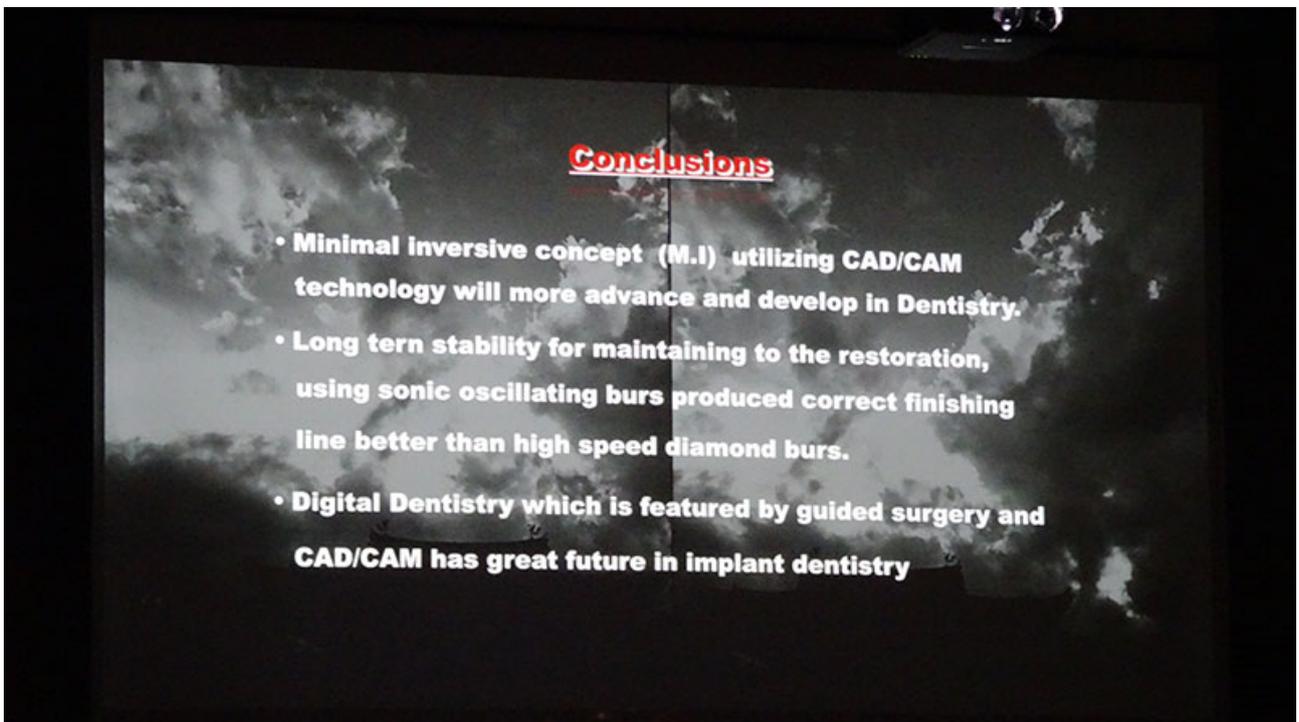
山崎長郎先生

Masao Yamazaki D.D.S



DOUBLE TOKYOの最高顧問に就任した山崎先生はその冒頭において、DOUBLE TOKYOへの期待を語り、その立ち上げに花を添えた。

その上で、山崎先生が44年の歯科医師人生をかけて培ってきた先にある、現在の臨床のありのままを語った。歯科医療の歴史、歯科医療の知の蓄積、そしてマイクロスコープの台頭。日本歯科医療界の巨人の言葉に、会場は魅せられた。



“ Dentistry is work of love. ”

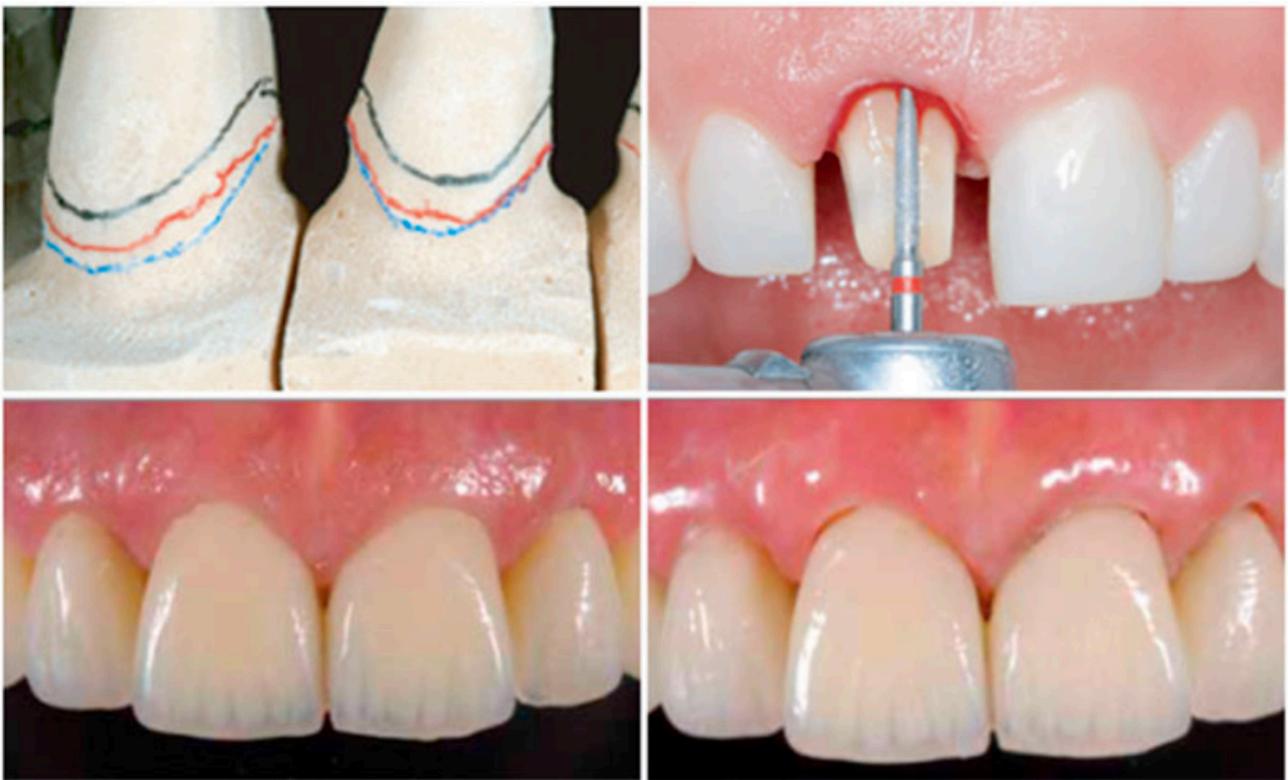
締め言葉に、山崎先生の絶え間ない情熱と努力に裏付けられた歯科医療への深い愛情が感じられた。

イタリア カリアリ開業

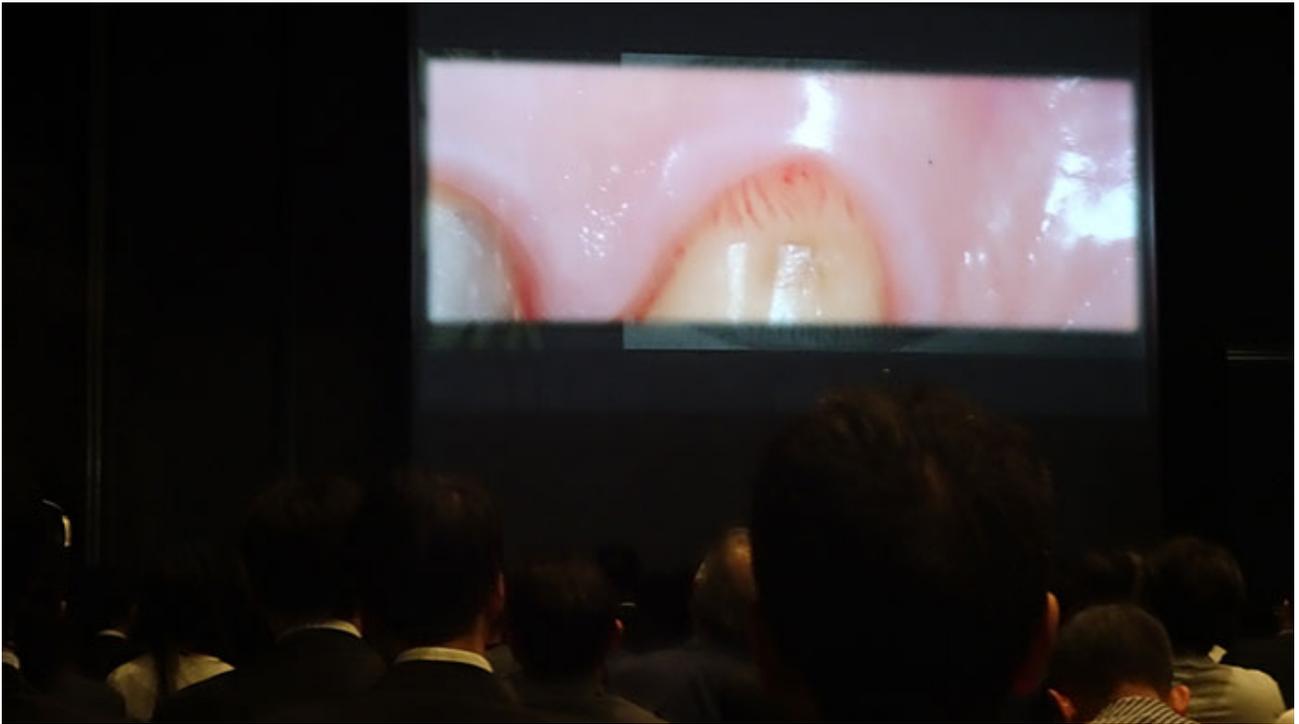
Dr. Ignazio Loi



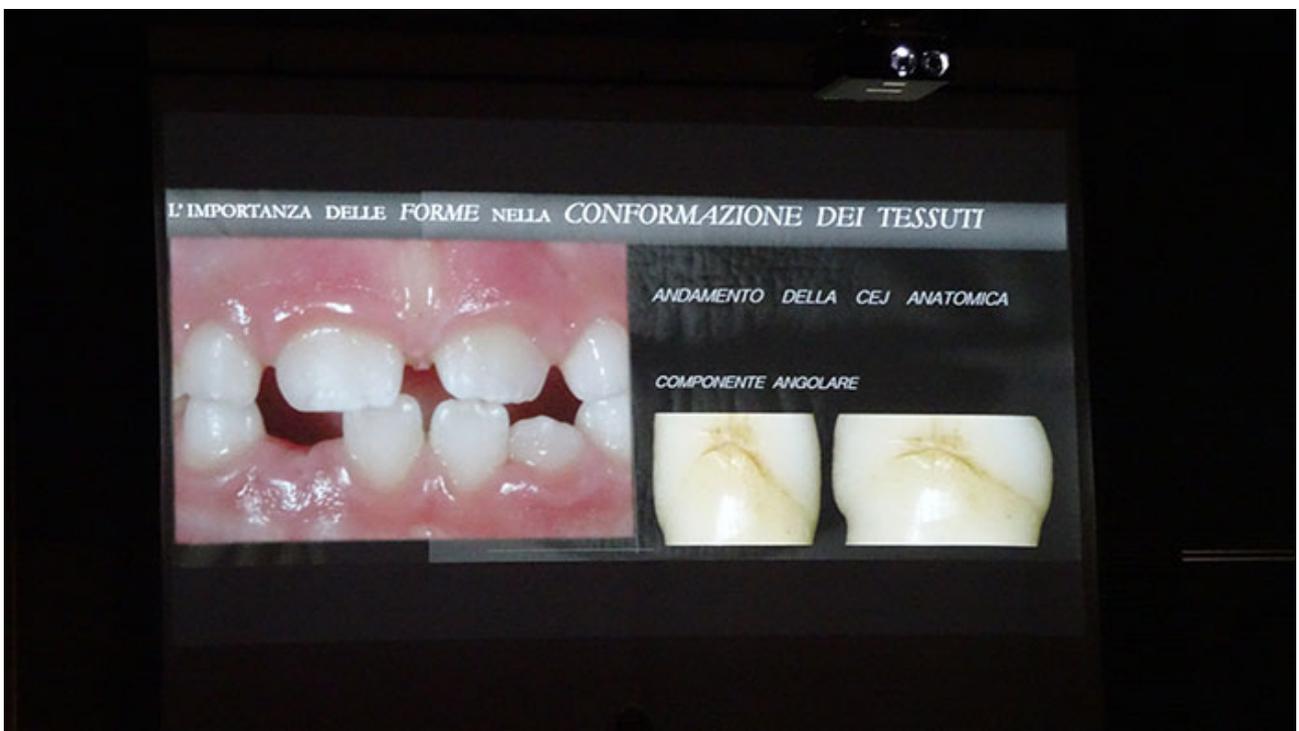
Dr. Loi は、現在ヨーロッパを中心に最も注目されている審美歯科治療テクニックの一つである、Biologically Oriented Preparation Technique (以下B.O.P.T.) の提唱者であり、世界中で講演をしている。B.O.P.Tは、近年、日本歯科医療界においても注目され始めており、今回で2度目の来日講演となる。



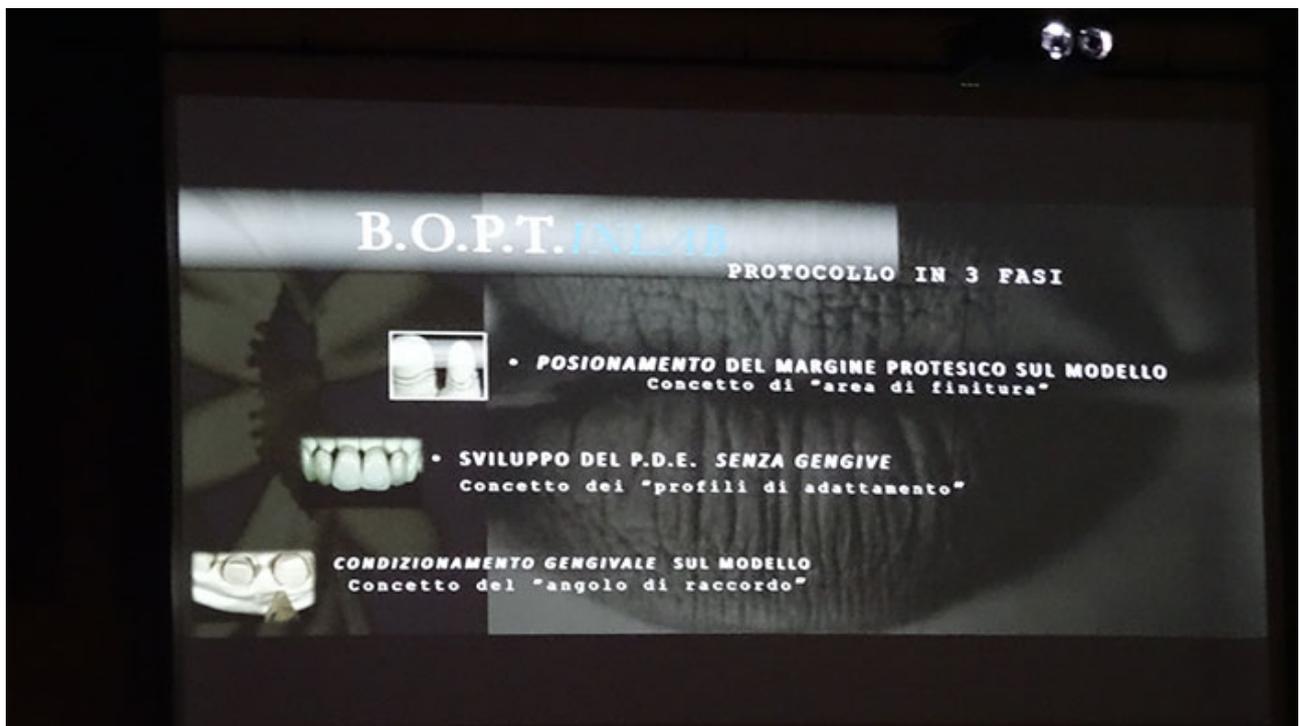
B.O.P.T.は天然歯のプレパレーションテクニックとして開発され、インプラントにも応用できるこれまでの審美歯科治療の概念とは大きく異なるテクニックであるという。



“ 私達は、バーを使うと歯肉が下がると聞いてきました。しかしながら、歯肉にプレパレーション（形成）を行うとその治癒の過程で厚みが出てきます。これはこれまでの文献にはないことでしたが、目の前で起きている現実であり、そこから新しいアプローチが生まれました。 ”



“ B.O.P.Tは、生物学的な理解に基づいたアプローチです。歯肉の形状は、遺伝子学的に決定されているのではなく、萌出してくる歯により規定されます。歯牙の形態が、歯肉の厚みを決めています。つまり、歯肉にプレパレーションを行い、クラウンにどのような形態を付与するかにより歯肉の厚みや形態を規定することができます。 ”



“ 従来の外科的処置や歯肉の漂泊などをしなくても、審美的に優れた修復ができます。 ”

全く新しい概念・アプローチ法である B.O.P.T について完全に理解するには、2時間という時間はあまりにも短すぎた。

Interview with Dr. Ignazio Loi

WHITE CROSSでは、Dr. Loiに独占インタビューを行った。



日本においては伝統的な、従来の治療法が厳格に守られています。その反面、世界ではスペイン、南米、アメリカ、そして旧東欧国において今、歯科医療の大々的な見直しが進んでおり、その中でB.O.P.Tが受け入れられています。日本の歯科医師の皆様には期待しているのは、日本においても世界の歯科医療が大きく変わってきていることが認識され、B.O.P.Tテクニックが受け入れられ、普及していくことです。

今日ご覧いただいた様々な症例において、外科手術なしで、非常にシンプルに審美的な処置ができています。これはB.O.P.Tのみで可能なことだと私は考えています。

これから先、日本の歯科医療従事者の皆様、そしてDOUBLE TOKYOのグループの皆様と末長い関係を構築させていただき、B.O.P.Tテクニックの普及に努めていきたいと考えています。その中で、様々な意見交換、コース、そしてこのようなカンファレンスを行っていけるのであれば、非常に嬉しいです。

SESSION "Which is Longevity?"

山崎先生 & Dr. Loi



全く新しい概念・アプローチ法である B.O.P.T について完全に理解するには、2時間という時間はあまりにも短すぎた。

CLOSING

橋村先生と志田氏により講演者、参加者への感謝の言葉が語られ、熱気に満ちた1日の幕が下りた。



いよいよ始動したDOUBLE TOKYOのこれからの、期待が高まる1日であった。